

研究主題

「一人一人が自ら考え、わかる喜びを味わえる児童の育成」 ～問題解決学習を通し、互いに学び合う算数科の実践～

川越市立芳野小学校

研究のポイント

- 1 児童の実態を把握し、個に応じた指導・支援を行い算数を学ぶ楽しさを味わわせる。
- 2 問題解決学習を通じた指導を展開し、確かな学力の定着を図る。
- 3 自分の考えを伝え合う活動（学び合いの場）を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 4 練り上げ指導を中心とした教師の指導力の向上を図る。
- 5 教材・教具等の環境整備を進める。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

算数科の授業実践を通して、児童にわかる喜びを味わわせるための指導方法の工夫・改善を図る。

(2) 研究主題設定理由

本校は、平成20年度から2年間、算数科でわかる授業づくりをめざして指導法の工夫改善の研究を進めた。これまでの指導により、基礎・基本の定着は図れているが「表現力」や「コミュニケーション能力」の向上に関して課題が見られた。

児童の実態から算数科を通して、以下のような児童の育成を目指す。

既習事項を生かして、自力解決できる子

自分の考えをもち、説明できる子

他の考えのよさを認め、よりよい考えを見い出せる子

そこで、自力解決できるための手立てや友だちと考えを伝え合う場の設定などの指導方法を工夫すれば、児童にわかる喜びを味わわせることができると考え、本主題を設定した。

(3) 研究組織



めざす学校像

生きる喜びがあふれる学校

学校教育目標

かしこい子

やさしい子

たくましい子

保護者の願い

- ・進んで学習に取り組んでほしい。
- ・学習規律をしっかりと身につけてほしい。

児童の実態

- ・計算力が向上し、基礎学力の定着が見られる。
- ・説明することが苦手で、自分の考えを相手に伝えられない児童が見られる。

教師の願い

- ・自分の考えをもち相手にわかりやすく伝える力をつけてほしい。

研究テーマ

一人一人が自ら考え、わかる喜びを味わえる児童の育成
—問題解決学習を通し、互いに学び合う算数科の実践—

仮説 一人一人の実態を把握し、問題解決学習を通して、基礎基本の確実な定着を図れば、確かな学力を身につけることができるであろう。

仮説 友だちと学び合う場を工夫すれば、児童がわかる喜びを味わうことができるであろう。



手立て

各調査（入間地区学力調査・標準学力検査等）やアンケートによる実態把握
少人数指導による指導方法・学習形態の工夫

話し合いの仕方、学び合いの場の設定

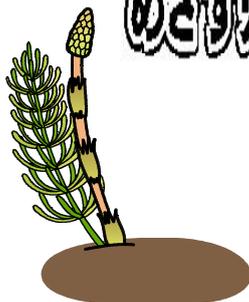
練り上げの指導過程の充実

既習事項を活用した授業展開

自力解決の時間の確保

学習環境の整備（算数コーナー、学習室の掲示物の工夫など）

めざす児童像



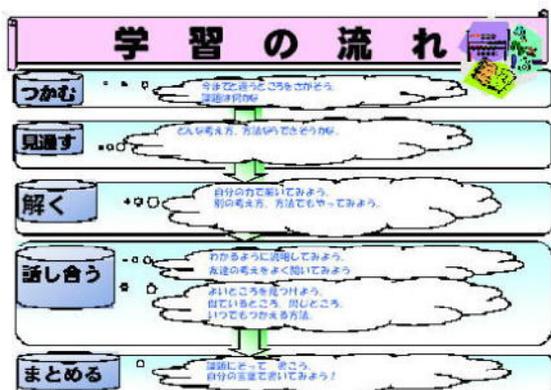
- 低学年 既習事項を活用して解決し、
自分の考え方を話せる子
- 中学年 既習事項を活用して解決し、
考え方を伝え合える子
- 高学年 既習事項を活用して解決し、
よりよい考え方へと高め合える子

3 実践事例

(1) 【学習指導部】

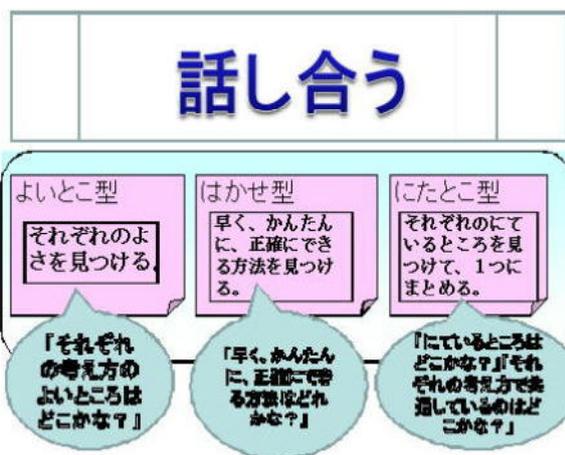
1 単位時間の学習の流れ

「つかむ」「見通す」「解く」「話し合う」「まとめる」とし、学習の流れを明確にした。



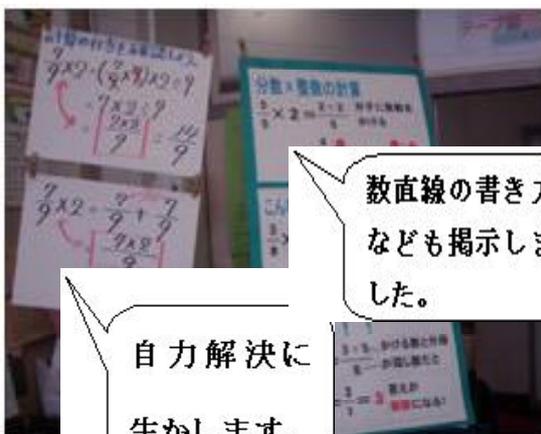
練り上げの視点

練り上げの仕方、ポイントが児童にわかるように 型と名付けて掲示物を作成した。



算数コーナーの活用

既習事項を掲示して、自力解決のヒントにします。



算数のヒント

解決のヒントとなるように各教室に掲示した。



研究授業

研究協議では、グループ討議を中心にを行い、研究が深まった。

- 3年「長さをはかろう」(7/8)篠原政樹教諭
- 6年「分数のかけ算とわり算」(9/27)高村 勉教諭
- 2年「かけ算(2)」(10/21)清野瑞以教諭
- 1年「ひき算」(11/4)長岡真由美教諭
岸田 初美教諭
- 4年「計算のきまり」(11/16)田原文子教諭
須澤弘美教諭
- 5年「分数のたし算とひき算」(12/13)上野恭子教諭
須澤弘美教諭

練り上げの構想図(4年の例)



(2) 【資料調査部】

アンケートの実施

7月と12月に実施した。学び合いを中心にアンケートの項目の設定を考えた。

学習室の環境整備

少人数指導で使用する学習室の整備を行った。

学年別の単元一覧表の作成及び掲示

既習事項を明らかにし、学年ごとの系統性がひと目でわかるように全学年で作成した。

また、児童にも既習事項がわかるように学習室の前面へ掲示した。



3年生の単元一覧表

活用しやすい工夫

教材教具一覧表の作成

学年ごとに単元別の教材教具一覧表を写真入りで作成した。年間指導計画と連携させて活用すると教材研究の際に効果的であると考えた。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

自力解決のできる児童が増えた。自分の考えをしっかりと書けるようになってきた。

2～3人のグループ内で自分の意見を発表できるようになってきた。レディネステストで、児童の実態を把握し、指導に生かすことができた。

まとめの言葉を自分の言葉で書けるようになってきた。

学び合いが定着してきて、他教科にも生かすことができた。

学習室の環境整備を行うことで、教材研究の準備や既習事項の系統性を改めて確認できた。指導計画を進める上で効果的であった。

アンケート2回の実施により、児童の変容の様子が把握できた。

(2) 課題

個人差があるので、そのための手立てを検討する必要がある。

伝え合う場での教師側の支援の仕方を検討していきたい。

グループのメンバーの組み合わせの仕方について検討していきたい。

アンケート結果から、各項目や各学年によって伸び率に違いが見られた。2回の比較(上がった、下がった)結果の理由を探り、課題が見られた場合は、改善する手立てを考え、指導していきたい。

研究主題

「自ら進んで主体的に健康づくりに取り組む生徒の育成」
～ 基本的な生活習慣の定着を目指した歯・口の健康づくりに関する指導～

川越市立東中学校

研究のポイント

生徒の健康に関する自己管理能力を高めるために、歯・口の健康づくりを中心に、生徒会保健委員会の年間活動計画に位置づけ、啓発に努める。

「教育に関する3つの達成目標」の結果をもとに、生徒の実態を把握し、家庭での学習意欲の向上を目指した支援の工夫・改善を図る。

学校生活の規律ある態度を身に付けさせるために、生徒会専門委員会の活動を通し生活習慣の定着を図る。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

歯・口の健康づくりを中心に、生活習慣の定着を図る

規律ある態度を身につけ、主体的に学習意欲の向上を目指すをねらいとして、研究を推進する。

(2) 研究主題設定理由

本校生徒の実態を見ると、生徒自身の健康管理についての関心の薄さ、学校や家庭での基本的な生活習慣についていくつかの課題が見られる。

「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり」を推進するためには、日々の基本的な生活習慣を一つ一つ確立していくことが何より重要である。そのためにも、よりよい生活を進んで実践しようとする意志決定や行動選択ができる生徒を育成する必要がある。そして、生徒一人一人の実践の積み重ねが、歯・口の健康を含めた生涯にわたる心身の健康づくりへつながると考えた。

そこで、本校では全教職員の共通理解のもと、研究主題を「自ら進んで主体的に健康づくりに取り組む生徒の育成」と設定し、さらに、副題を「基本的な生活習慣の定着を目指した歯・口の健康づくりに関する指導」とし、研究を進めていくこととした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

研究仮説 1

- ・ 体験的な学習活動を通し、地域や家庭との関わりを持った教育活動を展開すれば、規則正しい生活習慣が身に付くであろう。

研究仮説 2

- ・ 1日の生活を見直させる過程において、学習環境や学習意欲を高めるための支援を工夫すれば、学習習慣が身に付くであろう。

研究仮説 3

- ・ 生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを工夫すれば、規律ある態度が養われるであろう。

3 実践事例

保健教育部の実践内容

(1) 歯・口の健康観察ノートとレーダーチャートの記入



生活習慣を振り返り、改善を図るために「生活習慣セルフチェックカード」に当てはまるものに記入をし、レーダーチャートを作成しました。各学期と長期休業中の生活習慣について見直しを図りました。

(2) 歯垢染め出しの様子

9月と1月の身体測定と同時並行で、歯垢染め出しを実施しています。生活習慣が乱れやすい夏季休業中や冬季休業中の生活を振り返らせる機会としています。「歯・口の健康観察ノート」を活用して生活習慣の振り返りや歯肉の健康観察をした後、歯垢染め出しをして感想を書いています。



(3) 歯科衛生士によるブラッシング指導

平成 22 年 1 月～ 2 月の間、全生徒対象にブラッシング指導を行った。今年度 1 年生は「秋の歯科保健指導」後の、10 月 21 日（木）に実施しました。ほとんどが真剣に取り組んでいて、中には「歯みがきが楽しいのでブラッシングに熱中しました」と答えていた生徒がいました。

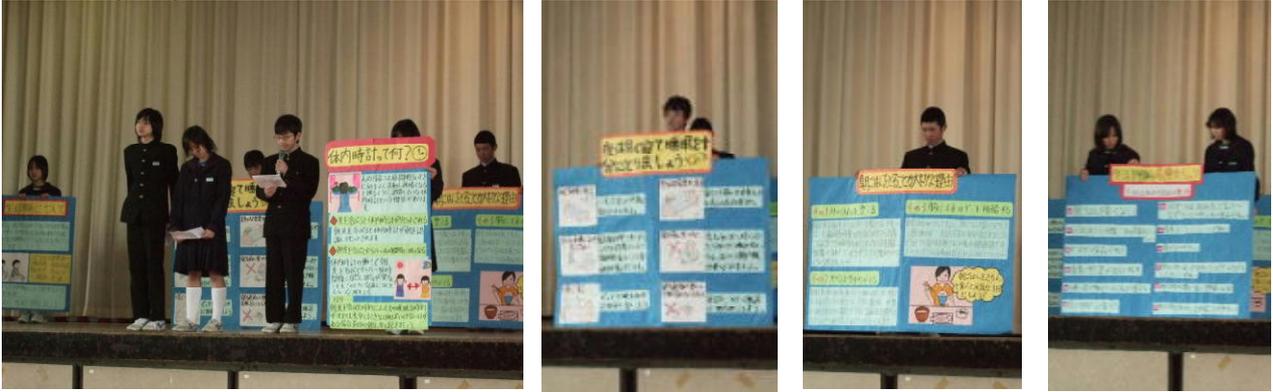


健康な歯肉と歯肉炎・歯周病の違いについて学習した後、ブラッシング方法について丁寧に教わりました。ブラシの音のみが教室に響きわたっていました。

(4)保健委員会の取り組み

【規則正しい生活】

生活習慣病予防のために規則正しい生活を送るよう実践してほしいと思い、4月9日（金）の新入生オリエンテーションの時に発表を行いました。



【歯・口の健康】



歯・口の健康についての関心や理解を深めてほしいと思い、9月21日（火）の生徒朝会で発表を行いました。これらの資料は職室前の廊下に掲示しましたが、生徒や職員・保護者からの関心が高く、一際目を引く掲示資料となり好評でした。

【歯みがき状況調査の結果】

各学期2回、歯みがき状況調査を実施しています。生活委員会の服装点検やチャイム着席点検と同じ期間に設定して実施しています。調査をし、実態を把握するとともに啓発活動を目的としています。また、給食後の歯みがきができていないため、生徒朝会を利用して「歯みがきをしましょう！」と呼びかけを行いました。

学年	男子	女子	合計
1年	53.6	53.9	53.75
2年	53.7	53.4	53.55
3年	53.6	53.6	53.6
4年	53.9	53.3	53.6
5年	53.7	53.4	53.55
6年	53.8	53.5	53.65
合計	53.7	53.4	53.55



体の健康は、口の健康から始まると言われています。歯・口の健康は体の機能を高め、運動能力にも影響します。

(5)関連教科における指導の展開

道徳・学級活動との関連性を図り、規則正しい生活についての指導の展開を行いました。

(1 年生の道徳)



(3 年生の学級活動)



(6) 学校保健委員会

7月9日(金)に会議室にて学校保健委員会を開催し、学校研究での取組状況について説明を行い、渡辺広美指導主事から指導講評をいただきました。



PTA 環境保健委員の方に記録・報告資料の作成と報告をお願いしています。学校保健委員会で話し合った内容は、地区懇談会で報告してもらっています。

学習指導部の実践内容

Sメール(生活記録ノート)、「MY PLAN」(定期テスト範囲表と学習計画表を活用し、学校と保護者の連携を図り、学習習慣化を推進した。

生徒指導部の実践内容

生徒会専門委員会の生活委員会の活動として、身だしなみ(名札、服装)、チャイム着席等の定期的な点検を実施し、学習規律の見直しを図った。

4 成果と課題

成果

ブラッシング指導などの体験的活動により、歯・口の健康について関心が高まった。保健委員会や放送委員会等の積極的な委員会活動により、健康に対する意識が高まった。

生活記録ノートや学習計画表を活用することで、計画的に学習する生徒が増えた。生活委員会と学級委員会の連携により、時間を意識した行動がみられた。

(2) 課題

給食後の歯みがきの習慣化を徹底させるための手立てをさらに考える。

望ましい生活習慣が身についていない生徒への指導の改善を図る。

家庭と連携し、学習環境の改善を図る。

小・中学校との連携を図り、継続して指導をしていく必要がある。

研究主題

「人とのかかわりを大切にし、主体的に活動できる児童の育成」

～ 伝え合い、学び合う国語の力～

川越市立川越小学校

— 研究のポイント —

国語の授業を通して、子ども同士の関わりを大切にし「伝え合う」コミュニケーション能力の育成を目指す。

教師の創意工夫を引き出していくために、プロジェクトチームを編成しリーダーを中心に主体的な実践研究を進める。

1 研究の概要

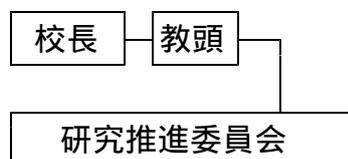
(1) 研究のねらい

委嘱 1 年目は「読むこと」を重視し、文章を的確に読み進める読解力を身につけさせ、子ども同士の関わりの中で読みが深められるように授業に取り組んだ。

(2) 研究主題設定理由

本校の児童の課題は、適切な自己表現が不得手であり、話は聞けるが相手の意見に対して自分の考えを述べるのが苦手である。これは、県の学習状況調査の質問紙においても「意見がはっきりいえる」の項目は、県平均より 5 ポイント低くなっていることから如実に表れている。また、家庭訪問や保護者会で「家では、あまり本を読まない。」という声もよく聞かれる。このことから、児童一人ひとりに確かな読みを身につけさせ、表現する意欲や伝えたい意欲を身につけさせていくために本主題を設定した。

(3) 研究組織



【ご指導いただいた先生方】

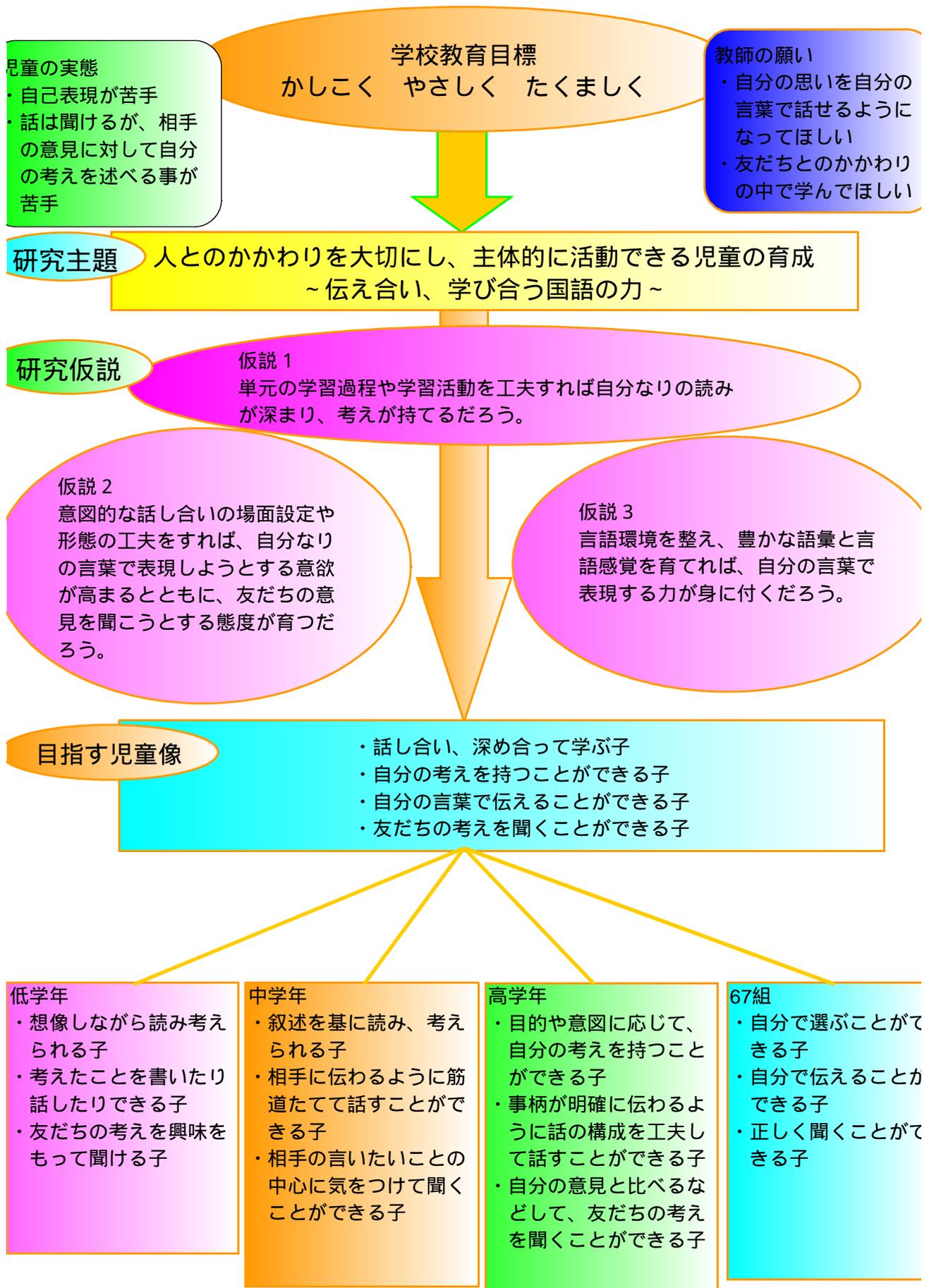
青山学院大学教授	小森 茂 先生
川越市教育委員会指導主事	小金井幸則 先生
川越市立高階南小学校校長	加藤伸二 先生
川越市立武蔵野小学校教頭	細谷敏人 先生
川越市立特別支援学校教頭	浅見由利子 先生

授業基本プロジェクト
コミュニケーションプロジェクト
表現力向上プロジェクト
読書活動推進プロジェクト
教材教具開発プロジェクト

1 年部会	4 年部会	67 組部会
2 年部会	5 年部会	
3 年部会	6 年部会	

2 研究の内容

研究全体の構想を以下のようにとらえ、実践に取り組んだ。



3 実践事例

本校の特色であるプロジェクト活動について紹介する。

(1) 授業基本プロジェクト

「読むこと」の授業の基本的な展開や指導案の形など、授業授業の充実について考える。授業の中で、意図的な話し合いの場面を設定したり、自分なりの言葉で表現する活動を取り入れている。



1年「大きなかぶ」

場面をわかりやすく示す



4年「白いぼうし」

話し合いのアドバイスをする。



5年「わらくつの中の神様」

主人公の心情の変化を読み取る



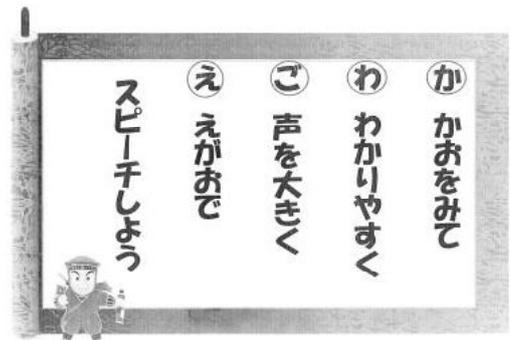
6年「やまなし」

グループでの話し合い

(2) コミュニケーションプロジェクト

友だちとの対話・双方向コミュニケーションをテーマに 授業やその他の時間に「話し合う力」を育成し、自分の 意見や考えを伝えるための方法について考える。スピーチ虎の巻を作成し、合い言葉のようにポイントを示した。

また、発表の声が小さいので「声のものさし」を再確認し、掲示物が古いものは取り替えた。



(3) 表現力向上プロジェクト

コミュニケーション能力の基礎となる表現する力を育てる ために音読や朗読・スピーチなどについて考える。児童のことばに関する興味関心を高めるために音読教材リストを作成した。学年毎にファイルをしてすぐ使えるように整備した。また、滑舌を良くするための、川越小独自の「あいうえおの詩」を作成し、短時間で練習できるようにした。音読カードについては、形式を見直して使いやすいようにした。



(4) 読書活動推進プロジェクト

児童の感性や言語感覚を磨き、語彙を豊富にするため、に読書活動を推進する方策

について考える。児童の読書への関心が高まるように川越市立図書館と連携して職員研修を行った。そして、職員研修で選んだ図書を「先生おすすめの本」として紹介したり、低学年向けに「川越小 20 選」・高学年向けに「テーマ別ブックリスト」を作成した。10 月より保護者の啓発を図るため「家庭読書のすすめ」を開始し、20 分以上の家庭読書に取り組ませている。



(5)教材開発プロジェクト(67組)

児童の発達段階に応じて指導が系統的に進められるように一覧表を作成した。指導が効果的に進められるように段階にあわせたプリント資料を作成した。その資料は、引き出しに整理してすぐ取り出せるようにした。

4 今後の成果と課題

(1)成果

各学年の授業研究を通して、単元計画や発問、板書、ワークシート等の工夫がみられ、児童の「読むこと」に対する意欲が高まった。

話し合いの進行表を作成してパターン化したり、話し合いの柱だけを示したりすることにより児童は話し合いのスタイルになれてきた。低学年では、隣の児童との対話、中高学年ではグループによる話し合いと授業の中で友だちと関わり意見を交流する場面を意図的に設定できた。

プロジェクトチームの活動により国語や言語、読書についての環境整備が進んだ。家庭読書の取組では保護者へアンケート結果を情報提供したり、読書ボランティアの方の協力を得ながら読書活動を盛り上げていこうという意識が高まった。

(2)課題

自分なりの読みはできてきたが、話し合いの意見交換が深まっていない。意見交換が自信をもってできるように叙述を押さえた情報の取り出しをきちんとできるように指導していく。

プロジェクトチームの活動時間が十分に確保できなかったため、話し合いに時間がかかってしまった。今後は、時間の確保とともに解決すべき内容を事前に明示し効率化を図りたい。

研究主題

「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」

～豊かな心とたくましい体を育む体育指導の工夫～

川越市立川越第一小学校

— 研究のポイント —

- ・友達と豊かに関わり合い、自ら体力を高めることができる学習指導を工夫していくことで、進んで運動に親しむ児童の育成を目指す。
- ・実態を的確に把握し、環境を整備していくことで、進んで運動に親しむ児童の育成を目指す。
- ・自分の健康や生活について関心を持ち、課題を解決できるような健康、食に関する指導をしていくことで、心身共に健康な児童の育成を目指す。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

本校では、「四つのだいじ(いのちをだいじに、人をだいじに、心をだいじに、ものをだいじに)」を学校教育目標に掲げ全教育活動に取り組んでいる。その学校教育目標の具現化に向け、体育の授業では、以下のような児童の育成を目指し、体育科の研究に取り組んできた。

低学年

- ・友達と仲良く力いっぱい運動する子
- ・自分の体に関心を持ち、健康な体をつくろうとする子

中学年

- ・自分のめあてに向かって友達と励まし合って運動する子
- ・自分の健康や生活についての課題を知り、解決しようとする子

高学年

- ・進んでめあてを見つけ、友達と教え合いながら運動する子
- ・自分の健康や生活について課題を見つけ、進んで解決する子

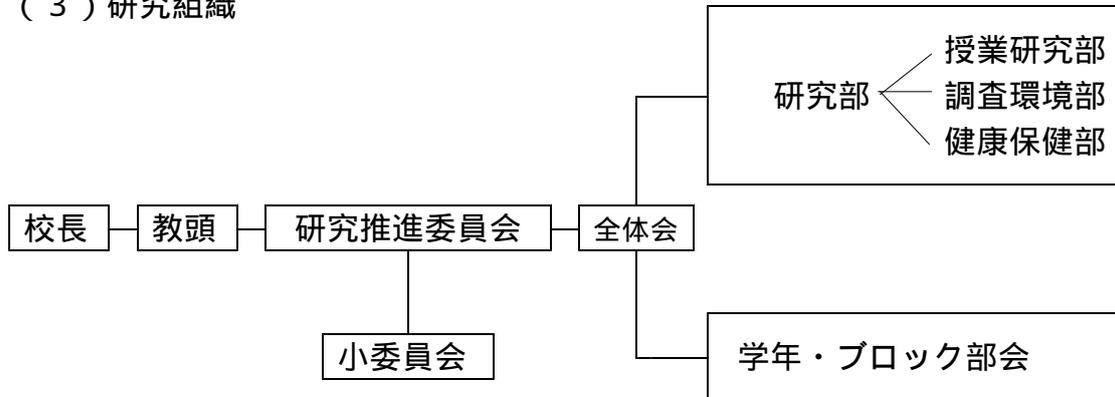
(2) 研究主題設定理由

本校においては、新体力テストの結果によると全体的に県平均を上回る種目が少なく、また、休み時間に外で元気に遊ぶ児童は高学年にいくほど限られてきてしまっている傾向があった。さらに食に関しても、夜遅く夕食を食べたり、朝食を抜いて登校したり児童がいるなど食生活の乱れも見受けられた。

そこで、「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」～豊かな心とたくましい体を育む体育指導の工夫～を研究主題に掲げ、適切な運動経験と食への理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力・

健康の保持増進の基礎を育てるために指導法の工夫改善を図っていくことにした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 授業研究部

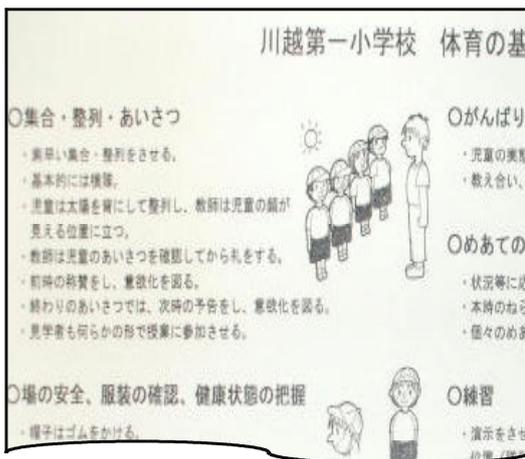
活動のねらい

友だちと豊かに関わり合い、自ら体力を高めることができる学習指導の工夫を行い、進んで運動に親しむ児童の育成を図る。

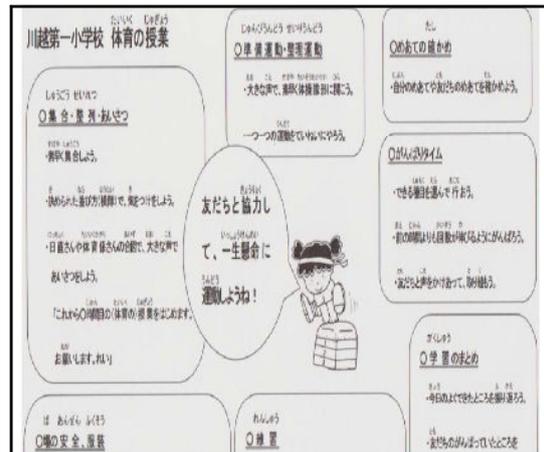
具体的な活動内容

- ア 年間指導計画の作成
- イ がんばりタイムの効果的な活用
- ウ 学習カードの共有化
- エ 授業の基本事項の作成

教師用



児童用

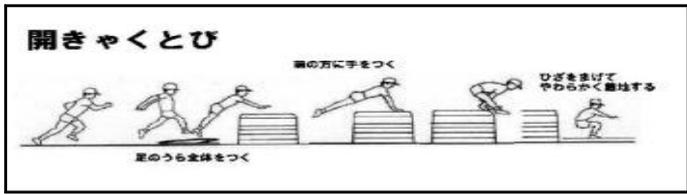


(2) 調査・環境部

活動のねらい

実態を的確に把握し、環境の整備を行い、進んで運動に親しむ児童の育成を図る。

- 具体的な活動内容
 ア 児童の実態調査
 イ 環境整備
 (ア) 体育館の掲示物



(イ) 体力を高めるための環境づくり



(ウ) 掲示用ボード

(3) 健康・保健部

活動のねらい

自分の健康や生活について関心を持ち、課題を解決できるような健康、食に関する指導を展開し、心身共に健康な児童の育成を図る。

具体的な活動内容

ア 計画づくり

全体計画

食育系統表

教科・領域	1年生	2年生	3年生
押さえない 「食」に関する内容	かむことの大切さ	バランスよく食べる①	朝食の大切さ
体育 (保健領域)			「毎日の生活と健康・朝食の大切さ」
学級活動	「楽しい給食」 (体・社会)	「食」指導 (体・自己)	「生活習慣についてえよう」 (体・心・白)
		「給食ありがとう」 (体・心・白)	「感謝して食べよう」 (体・心・白)

イ 食育だよりの発行



3 実践事例

(1) 運動領域の授業実践例

第5学年 単元名 「跳び箱運動」 (器械運動)

ねらい「できる技のできばえを高めたり、できそうな技に挑戦してできるように
し

導入

準備運動 がんばりタイム 慣れの運動



足がしっかり伸びるように。



10秒間できたよ。



踏み切りを強く、腰を高く。

展開 ねらい1



着地ぱっちり

ねらい2



強く踏み切って

まとめ 学習のまとめ



がもらえたよ

(2) 保健領域の授業実践例

第3学年 単元名 「1日の生活のしかた」(食育)

ねらい「朝ごはんのパワーを知ろう」

導入

今日の朝ごはんを思い出そう。

展開

朝食の実態について知ろう



3つのスイッチを知る

まとめ

朝ごはんの組み合わせを
考えよう



4 研究の成果と課題

(1) 成果

運動の特性に触れる授業が展開できたので、意欲や技能の向上につながった。

教え合い活動や励まし合い活動をしったりする場面を意図的に設定したので、友だちとの関わり合いが多くもてるようになった。

体育や食生活に関するアンケートを全校で実施したことにより、児童の体育や食に関する意識や実態が分かり、授業の組み立てに役立った。また、家庭や地域への啓発を図ることができた。

(2) 課題

体力向上のための授業や体育的活動の一層の工夫と継続的な実践が必要である。

研究主題

「思いやりの心もち、規範意識を高める仙波っ子の育成」 ～ 道徳的実践力を高める指導法の工夫～

川越市立仙波小学校

研究のポイント

思いやりの心や規範意識など道徳教育全般に関する理論研究
子どもの心をゆさぶる道徳の時間の指導法に関する研究
小学校と中学校との指導内容面も含めた一貫した教育の在り方に関する研究
保護者・地域社会との効果的な連携の在り方に関する研究

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

児童の心をゆさぶる授業の工夫をすることにより、児童の思いやりの心を育成する。
学校や保護者・地域と連携を深めることで、規範意識を大切にする児童を育成する。

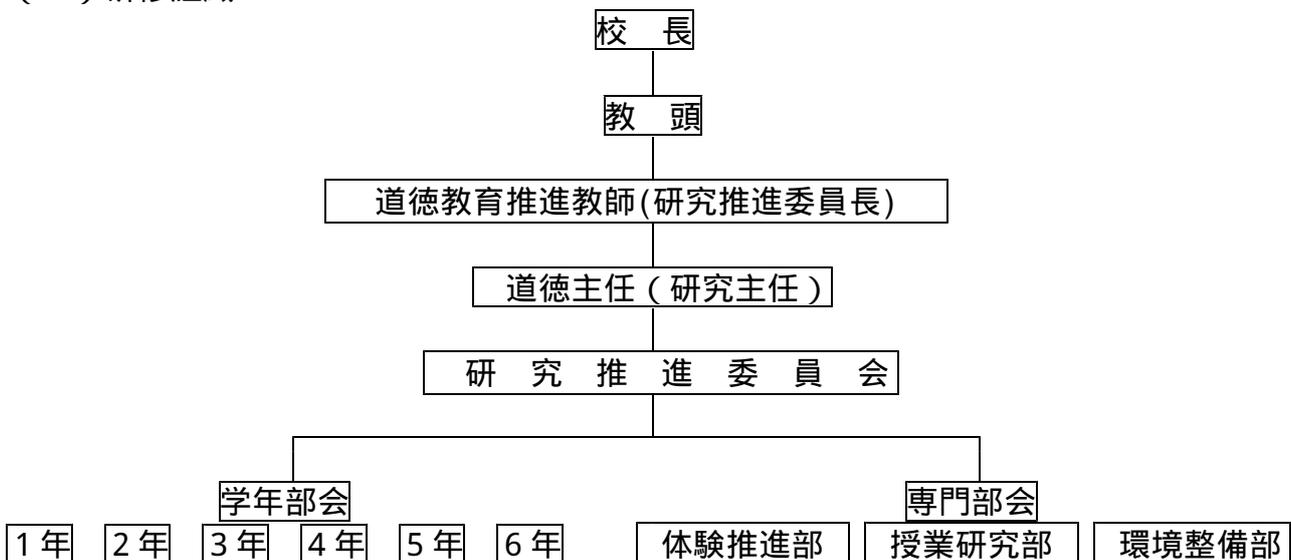
(2) 研究主題設定理由

近年、社会的モラルの低下など児童を取り巻く状況は大変厳しく、非社会的・反社会的行為の増加など児童に関わる様々な問題が山積している。このような社会において、児童が人間としての豊かな心もち、規範意識を高めて前向きに生きていくために、学校教育の中での道徳教育の重要性がますます高まっている。

本校児童の実態を見ると、元気で明るい児童が多い反面、規範意識や思いやりの心をもって人に接することに課題を抱えている児童もいる。また、昨年度保護者を対象に実施した「『心の教育・道徳教育』に関する調査」からも「思いやりをもってほしい」「規則の守れる子になってほしい」などの願いが強く見られた。

このような課題や願いから、「自分や他者を大切にし、規範意識を高めて前向きに生きていく児童の育成」が必要だと考え、道徳の時間を要として、児童の心をゆさぶる指導をすると共に、保護者・地域との連携を深め、道徳的実践力を高められるように、本主題を設定した。

(3) 研修組織



2 研究の内容

時 期	内 容
1 学期	
4 月	・ 研究計画の立案
5 月	・ 組織づくり ・ 主題設定の確認 ・ 小中連携計画の立案
6 月	・ 研究主題に基づく理論研究「学校研究の推進について」 川越市立教育センター指導主事 田中 孝 先生
7 月	・ 研究題目に基づく理論研究（砂中学校との小中合同研修会） 「学習指導要領の改訂と今後の道徳教育の推進について」 東京学芸大学教授 永田 繁雄 先生
8 月	* 学校・家庭・地域合同開催 「子ども達に人を思う心を」～心を揺さぶる授業とは～ 元埼玉県道徳教育研究会会長 鈴木 賢一 先生 ・ 各研究部会ごとの小中合同協議
2 学期	
9 月	・ 授業研究会（3 学年） ・ 授業研究会（6 学年）
10 月	・ 授業研究会（2 学年） ・ 学校公開日（全クラス道徳の時間の公開）
11 月	・ 授業研究会（1 学年） ・ 授業研究会（体育科との関連を図った授業 6 学年）
12 月	・ 授業研究会（川越市立砂中学校教諭との TT 授業 仙波小 5 学年） ・ 授業研究会（川越市立砂中学校教諭との TT 授業 砂中 2 学年）
3 学期	
1 月	・ 授業研究会（4 学年） ・ 各部会ごとの研究のまとめ
2 月	・ 授業研究会（特別活動との関連を図った授業 3 学年） ・ 各部会ごとの研究のまとめ
3 月	・ 1 年次研究全体のまとめ ・ 2 年次の計画

3 実践事例

(1) 授業研究会の実施に向けて

学習指導案形式の工夫

学習指導案に、「研究主題との関わり」「他の教育活動との関連」を位置付けた。「研究主題との関わり」を位置づけたことにより、本時の授業で目指す児童像、その児童像にせまる手立てを明確にした。

また、「他の教育活動との関連」には、「学校行事」「他教科・他領域」「事前・事後指導」「家庭との連携」を位置づけた。これによって、道徳の時間を「要」とした道徳教育の充実が図れるようにした。





授業研究会までの手順

まず、学年での「先行授業」を行い、授業後に、先行授業で浮き彫りになった課題について検討し、授業展開を修正してから、授業研究会当日に臨むようにした。

研究協議会では、協議の視点をあらかじめ設定し、全職員で共通理解しておき、話し合いがより深まっていくようにした。

(2) 道徳との関連を図った授業の実践例

6 学年「ハードル走(陸上運動)」(体育科)

指導案の展開部分に「道徳との関連」を設けて、道徳との関連の意識化を図った。

道徳との関連の視点では、「旗上げリレー」を行い、個の計測をしながら、仲間との一体感を味わえるようにした。また、チーム分析タイムを設けて、兄弟チームでの確にアドバイスを送れるようにした。

本時の授業では、互いの動きを見合っの的確な声かけや相手を思いやった声かけができていた。



(3) 小学校教師と中学校教師のTTで行った道徳の時間の実践例

仙波小学校5 学年 主題名：きまりは何のために

4 - (1)「星野君の二るい打」

合同授業では、小学校担任T1と中学校教員T2の役割分担を明確にした。資料渡しでは、T1とT2がせりふの読み分けをした。このことにより、児童が資料のイメージを鮮明にすることができた。

展開では、T2が発問のまとめと板書を行い、担任のT1は、その際の児童の表情や態度を観察するようにした。



砂中学校2 学年 主題名：真の思いやり 2 - (2)

「母の誘い」(彩の国の道徳「自分を見つめて」)

中学校における合同授業でも、担任T1と小学校教員T2の役割分担を明確にした。授業全般を通して、T2が発問を行い、生徒をよく知っている担任のT1が切り返しを行っていくようにした。役割を分担して授業を行ったことにより、生徒の多様な考えを引き出すことができた。合同授業は、来年度の小中両校の年間指導計画に位置づけ、今後も継続して取り組んでいくこととした。



(4) 保護者と連携した取組の実践例

保護者アンケートの実施

保護者の願いや考えを把握し、道徳教育のさらなる充実を図るために、保護者へのアンケートを実施した。

このアンケートは、「道徳の内容項目の中から、特に育成したい項目を選ぶ」「思いやりの心を育てるために、各家庭で実践していることを記述する」という内容で、低・中・高学年のブロック別に実施した。



No.	氏名	学年	性別	職	希望	コメント
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

保護者の参加した道徳の時間の実践例

4 学年 主題名：命の大切さを感じよう 3 - (1)

「家族のアルバム」(彩の国の道徳「みんななかよし」)

家族の想いがあって、生まれ育ってきたことを資料を通して感じながら授業後半では、保護者が登場して、児童への思いをつづった手紙を読んだ。それぞれの児童も一通一通保護者からの手紙を受け取り、命の大切さを改めて感じる事ができた。



(5) 地域と連携した交流会の実践例

「夢と豊かな心をはぐくむ講演会」

(埼玉県道徳教育推進事業)

地域の球団である「埼玉西武ライオンズ」と連携し、ライオンズOB柴田博之さんと6年生児童との交流会を行った。

交流会当日は、講師の様々な経験をもとにした講話やドッジボール・給食等での交流を通して、児童は「夢を叶えるために必要なことや心のもち方」を学んだ。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・道徳グッズなどを活用することで、意欲的に考えたり発表したりする様子が見られるなど、道徳の時間を意識するとともに、相手の気持ちを考えて行動できる児童が増えた。
- ・学習指導案に学校行事、家庭との連携、事前事後指導などを明記したことにより、「道徳の時間」を要として意図的・計画的に道徳教育を推進することができた。
- ・小・中連携の取り組みでは、小学校中学校の教員がそれぞれの視点で、児童生徒をとらえ、授業を組み立てていく経験ができた。また、互いの人間関係が深まるとともに、義務教育9年間で思いやりの心や規範意識を育てる意識が高まってきた。

(2) 課題

- ・道徳の時間をより充実させていくために、今後さらに児童の心に響く様々な指導方法を工夫する。
- ・学校と家庭・地域が連携を強化していくために、家庭・地域への啓発の仕方をさらに工夫する。
- ・道徳の時間と各教科・領域等の関連をより一層明確にするとともに、豊かな心を育てる体験活動を一層充実させる。

研究主題

「共に学び合う子どもの育成」

～ 集団の中で，個が生きる特別活動～

川越市立高階南小学校

研究のポイント

コミュニケーション能力の育成を図る学級活動（１）の「話し合い活動」の充実
共に学び，高め合う集団を目指した学級活動の工夫
児童一人一人が集団の中で生きる学級活動，クラブ活動，児童会活動の実践

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

学級活動の進め方を共通理解し，各学級の実践を充実して，互いを理解し合い共に高め合おうとする集団づくりをする。

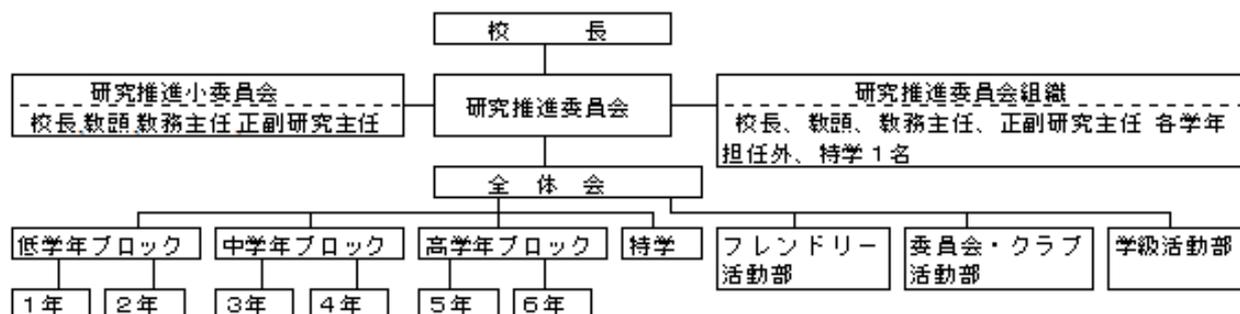
学級経営と関連させ，児童一人一人が活躍できる学級活動を展開する。

(2) 研究主題設定理由

平成18年度と19年度の2年間，「共に学び合う子どもの育成」を目指し，国語科を通して伝え合う力を伸ばすことに視点をあてた研究に取り組み，成果を得た。

そこで，国語科で培われた学力を様々な場面で活用し，より確かな力として子どもたちに身につけさせていきたいと考えた。また，本校の児童の実態から，よりよい人間関係を築くために，コミュニケーション能力の育成を図ることが重要であるととらえた。そのためには，互いを理解し合い，共に協力し，自分たちで問題を解決していく力の育成が必要であると考えた。また，コミュニケーション力は，集団活動の中で育成されていくものである。それらは，子どもたちの自主的な活動が中心となる学級活動を通して実践していくことで目指すことができると考え，平成20年度から学級活動（１）を中心に取り組むこととした。昨年度より川越市教育委員会の研究委嘱を受けることで学級活動をさらに充実させ，他の活動とも関連を図りながら「共に学び合う子どもの育成」を目指している。

(3) 研究組織



- (2) 学年ブロックの取組
各学年の授業実践
ブロック別授業実践

- (3) 各部の取組
学級活動部...集団の中で児童の個を生かす活動を進める。

フレンドリー活動部...縦割り班活動の充実を図る。

委員会・クラブ活動部...児童の自主的な活動を高める。



話し合いの様子

3 実践事例

(1) 授業実践

話し合いの流れ「意見を出し合う 意見をしぼる 意見をまとめる」を意識し、子どもたちの力で話し合いを進めることを目指した。

反対意見を生かし、歩み寄りによって決定できる話し合いを目指した。

回数	月日	「議題名」
		学年組・授業者名
第1回	5月20日	「サンサンオリジナルえ顔集会をしよう」
		3年3組・浅見 久江
第2回	7月 5日	「こんなにできるようになりました集会をしよう」
		1年1組・野澤 さざり
第3回	7月12日	「林間学校でけじめをつけよう大作戦をしよう」
		5年1組・金田 健
第4回	9月13日	「係を活発にする工夫を考えよう」
		4年2組・前田 和佳代
第5回	9月29日	「2年3組の歌をきめよう」
		2年3組・中野 学
第6回	10月18日	「本をよむよむブック集会をしよう」
		3年2組・齋藤 唯太郎
第7回	10月20日	「4年3組ギネス大会をしよう」
		4年3組・浅見 良委
第8回	10月21日	「サッカー大会で5年2組レベルアップ大作戦をしよう」
		5年2組・松井 広義
第9回	10月28日	「あそびかたを話し合っ、なかよくあそぼう！」
		花組・松木恭三・田中奈津・山本達也
第10回	11月 2日	「学校へありがとうの気持ちを伝えよう」
		6年3組・吉敷 勝江
第11回	11月15日	「最上級生としての自覚を持って、南小に伝説を残そう」
		6年1組・吉田 真紀
第12回	11月16日	「秋を楽しんじゃおうパーティをしよう」
		2年2組・杉山 直美

(2) 学級活動を進める具体的な手立て

模擬学級会の実施

4月に指導方法の共通理解を図るために、研究主任が担任役となって、教師が実際の話し合い活動を体験した。その中で、ノートやカード等の使い方や指導のポイントを確認し、授業実践にすぐ役立てるようにした。

学級活動コーナー、「学級の歩み」作り
ブロック毎に必要な掲示物を用意したり、「学級の歩み」を掲示したりして学級活動への意欲を高める環境作りを進めた。

話し合い活動のグッズ作り

子どもたちが自主的に話し合いを進めることができるように、助けとなる道具や進行カード等の工夫をした。



学級活動コーナー

(3) 各部での取組

学級活動部

- ・学年掲示「フレーフレー 学年コーナー」・学級活動コーナー・議題例や集会例の紹介・学級会（黒板グッズ・計画ノート・進行お助けカード）

フレンドリー活動部

- ・遊びブック・遊び一覧表と予約表・大班長会議での指導と遊びの伝達・教員がおすすめる遊び掲示コーナー・用具を最小限にしたハッピーフェスティバル

委員会・クラブ活動部

- ・委員会黒板の設置と活用
- ・クラブ掲示コーナーの設置と活用
- ・委員会活動とクラブ活動のノート作成と活用
- ・担当教師との打ち合わせ



クラブ掲示コーナー

4 成果と課題

(1) 成果

学級会の経験を重ねる中で、話し合いの進め方の理解が深まり、自分たちで話し合いを進め、自分たちで解決しようとする力が育ってきた。

自分たちの問題に気づき、みんなで解決しようとする意欲が高まり、自主的に活動する態度が育ってきた。

学級活動の経験を委員会活動やクラブ活動、フレンドリー活動に生かし、子どもたちの活動に創意工夫が見られるようになった。

(2) 課題

一人一人が学級の問題を自分のこととしてとらえ、よりよく解決していくために、自分の力を積極的に生かしていこうとする態度をさらに伸ばす。

学級活動で育てた力を全教育活動に広げ、「共に学び合う子どもの育成」を継続・拡大していく。

研究主題 論理的に考え、表現できる児童の育成
～ 論理的に考える力を身につける国語科の学習指導～

学校名 川越市立高階小学校

研究のポイント

- 1 論理的な作文の指導過程の確立
 - (1) 帰納論理、演繹論理の形式を明確にする。
 - (2) 「キーワード作文、1次作文、2次作文、評価」を4～5時間で指導をする。
- 2 作文の指導と評価の一体化
 - (1) 評価の観点を明確にする。
 - (2) 推敲する力、自己評価する力の向上を図る。
 - (3) 評価の客観性や信頼性を高め、書く力の向上を図る。
- 3 説明的な文章の読み方指導と論理的な文章の書き方指導の工夫と改善
 - (1) 文章構成、キーワード(重要語句)の指導を重視する。
 - (2) 文章構成、キーワードを読む学習から書く学習へつなげる。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

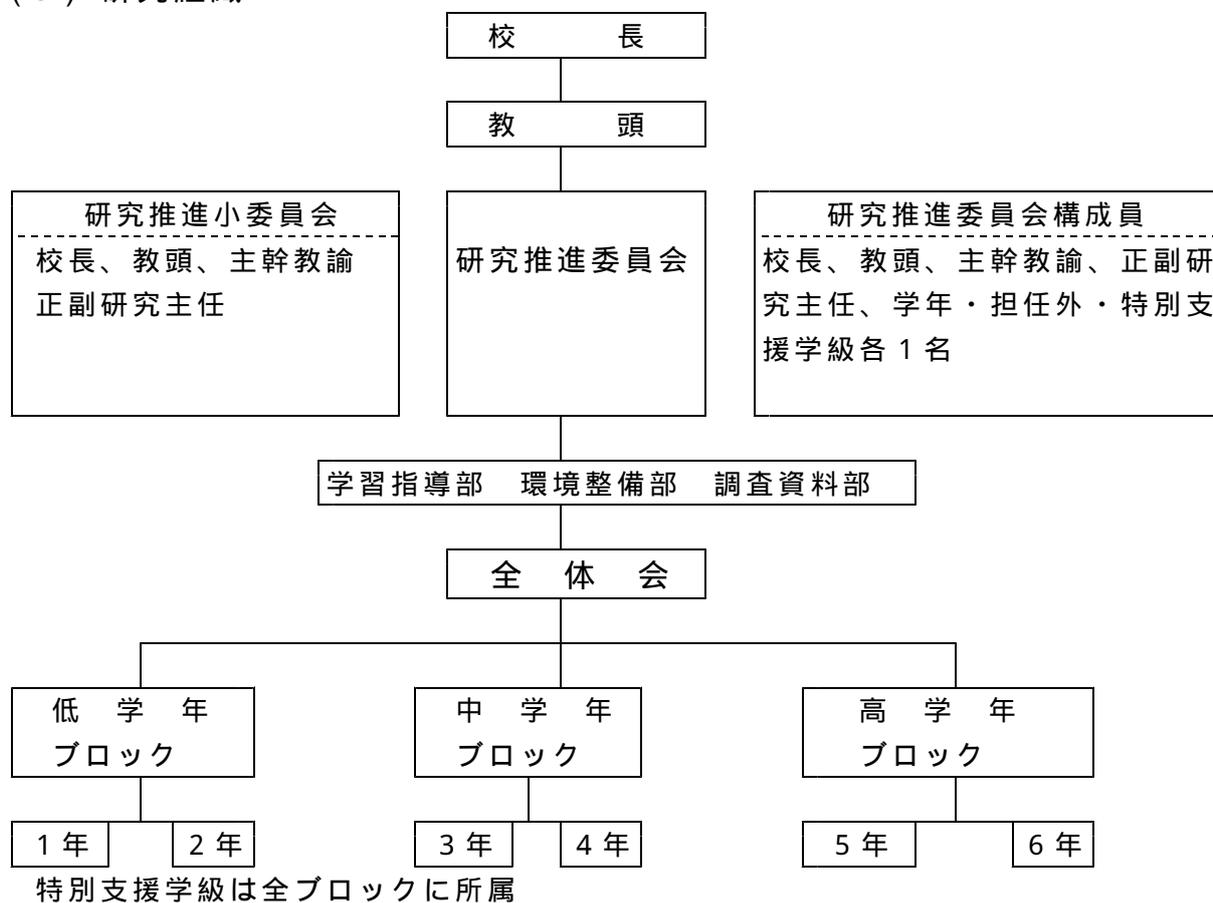
本校では、「論理的な思考」を「筋道の通った考え方(根拠や具体例を示す、比較や統合する)」「論理の型に従った考え方(帰納論理、演繹論理)」と捉える。本研究では、「説明的文章の読みにおいて、キーワード(重要語句)や筋道の通った考え方、文章構成を指導すること」と「文章構成を中心に読む学習から書く学習へつなげること」で児童の論理的な思考力が高まるという仮説のもとに、筋道を立てて自分の思いを表現できる子、相手の話を注意深く聞くことができる子の育成をねらいとした。

(2) 研究主題設定理由

中央教育審議会の「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ(平成19年11月7日)」があり、その中で、PISA調査等の国内外の学力調査から、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題に課題があると示されている。そして、これらの能力の基盤となるのは言語の能力であり、その育成のために、小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む「言語活動の充実」が必要であることを示唆している。この「言語活動の充実」にあたり、本校では「論理的に考える力を身につける国語科の学習指導法」を教師が身に

つけることを課題と捉え、研究主題を「論理的に考え、表現できる児童の育成」として、論理的文章の書き方指導を中心に、指導法の研究と授業実践を行うことにした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 環境整備部

「論理的な作文の仕上げ方」「作文を書く時の注意」「どちらがじょうずかな」の学習プリントを低・中・高学年別に作成した。また、それらを教室掲示用としても作成した。さらに、児童の参考作文を掲示用に作成し、言語環境の整備を行った。

(2) 学習指導部

「論理的な思考」を「帰納論理の型に従った考え」と捉えた。論理的な作文の形式を整備し、年間指導計画、テーマ、評価項目を作成した。さらに、作文をファイルリングし継続指導を実践している。

(3) 調査資料部

年度当初に「作文に対する意識調査」を実施した。その結果を各項目ごとに学年で集計し、分析・考察を行い、次回の指導に生かせるようにまとめた。

(3) 学習活動の工夫

学習プリントの活用
すらすら音読
オープン添削（板書の工夫）
よい文章例
わかりやすい評価方法
繰り返しの学習
作文ファイル



4 研究の成果と課題

(1) 成果

何度も書くことにより、「論理的な作文」の構成・役割を理解し、論理的な文章を書くことができるようになった。

論理的な作文の形式が身に付き、「なか」と「まとめ」の関係（論理性）を考える力がついた。

事実と感想を分けて考えることができるようになった。

オープン添削や評価の授業を通して、「なか」の事実を具体的に書こうとしたり、言葉を精選してまとめようとしたり、自分で推敲する力がついた。

読書では、説明文や、事典・図鑑などを読む児童が増えた。

説明文の読み取りの中で、主体的に文章構成を考えたり、キーワードを見つけたりすることができるようになった。

他教科での学習のまとめに論理的な作文の書き方が生かされるようになった。

指導過程が明確になり、授業の流れの共通理解が進んだ。評価の観点や添削の仕方も共通理解され、個に応じた指導ができるようになった。

(2) 課題

「読むこと」「書くこと」の他に「話すこと」でも論理的な思考力を高める指導をする。

形式に沿って一通り書ける児童をさらに伸ばすために、くわしく書く技能や、豊かな表現の方法を学ばせる。

全職員が授業の基本形を身に付け、自信を持って指導ができるように研修を継続していく。

他教科での生かし方について研修を深めていく。

「主体的に生きる力を身に付ける児童の育成」

～ 思考力を高めるためのコミュニケーション能力の育成をめざして～

川越市立月越小学校

研究のポイント

基礎基本を確実に身に付けさせ、確かな学力の定着を図るために単元構想図を活用した授業改善
思考力を高めるためのコミュニケーション能力の育成場面を評価する具体的な手だて
学習規律及び日常生活と学力の関連を探るためのアンケートの実施

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

学校教育目標『自ら学び、明るく、生きぬく子』の教育を基本として、すべての教育活動を通して「出会い、ふれあい、高めあい」を合い言葉に研究を進めている。そのなかで、一人一人のコミュニケーション能力を伸ばし、自ら考え正しく判断し行動できる児童を育成するための教育活動を推進することが急務である。その手だてとして、確かな学力の定着を図り、思考力が高まるような学習指導の工夫改善に取り組むこととした。

また、個々の児童のコミュニケーション能力の高まりを的確に評価し、指導に生かす方法についても研究していく。さらに、学習の約束やきまり、生活のきまりやマナーなどの基本的な生活習慣の充実を図ることも研究のねらいとしている。

(2) 研究主題設定理由

本校の児童は、概ね素直で元気がよいが、生活全般で考え方や物事のとらえ方が幼い。また、学習を主体的に進めたり、自分の思いや考えを表現したりする力が不十分である。特に、自分の考えを振り返ったり、友達の話聞いて自分の考えを広めたり深めたりせず、安易に結論を出したがる傾向がある。学習の中で、しっかりと話を聞き、じっくりと自分の考えを練り上げる場が必要と考える。それをコミュニケーションの場だと考えた。

そこで、コミュニケーション能力を「会話する力」だけでなく、「自らの考えを高めしていく力」ととらえ、学習指導の中で、課題に対して解決の方法など自分の考えをもつことができるようにすること。人との交流によって自分の考えをよりよいものにしていく力を身に付けさせることをねらいとした授業展開を図る必要がある。また、基本的な生活習慣を身に付けることによって、学習や生活に意欲がもてるようにすることも大切なことと考えた。つまり、学習過程での意欲をもった学び合い、教え合いを大切にした授業を確立するために本主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 授業研究部の取り組み

授業研究をするなかで、下記の項目に取り組んだ。

- 思考力を伸ばすための個に応じた指導の工夫
- コミュニケーション能力の活用を図る場の工夫
- コミュニケーション能力を高めるための思考力の評価
- 教科研究部を中心とした授業の計画・立案
- 授業研究会・研究発表会の役割分担
- 授業研究後の記録整理と反省

(2) 環境調査部の取り組み

児童の実態を把握するためにアンケート調査を行い、以下のような結果が得られた。

- 学習規律について 生活について 社会性について
に関しては、学習の準備、場に応じた声の大きさ等二極化が見られた。
 - に関しては、基本的な生活習慣が身に付いていない児童が多く、朝起きる時間がまちまちであったり、寝る時間が遅かったり、朝食を摂らないで登校する児童や歯磨きをしない児童がいたり様々であった。
 - に関しては、友達とのかかわり方がうまくいかなかったり、親子関係がうまくいっていないかったりコミュニケーションの取り方がうまくいっていない児童もいた。
- このアンケート結果から環境調査部では、子どもたちの基本的な生活習慣の確立をめざして実践してきた。

3 実践事例

(1) 研究授業

3学年 音楽「ふしのとくちょうをかんじとろう」関 春美教諭，原 香織教諭

指導者 川越市立東中学校 教頭 小熊 利明 先生 (6月3日)

4学年 音楽「音をきき合せて合わせよう」...関春美教諭

指導者 川越市立東中学校 教頭 小熊 利明 先生 (10月29日)

輪唱で声の重なりを楽しむ。

パートナーソングで旋律の重なりを楽しむ。

2つの旋律が重なる楽曲を聴く。

部分2部合唱で重なる響きを楽しむ。

合奏で音の重なりや旋律の重なりを楽しむ。



5 学年 図画工作 「糸のこドライブ」 今成 美恵子 教諭

指導者 狭山市立入間川小学校 教諭 井出尾 晋一 先生（6月24日）

1 学年 図画工作 「くしゃくしゃがみからうまれたよ」 三角 久美 教諭

指導者 狭山市立入間川小学校 教諭 井出尾 晋一 先生（10月29日）

材料との対話

材料を触れることで表現を広げる。

自己との対話

他者との対話

鑑賞をどの時間にも設定することで自他の良さを知る。



4 学年 体育 「跳び箱運動」(器械運動) 橋本 知子 教諭 (6月17日)

指導者 川越市文化スポーツ部スポーツ振興課指導主事 西貝 俊哉 先生

5 学年 体育 「ハードル走」(陸上運動) 大野 拓也 教諭 (10月29日)

指導者 川越市文化スポーツ部スポーツ振興課指導主事 西貝 俊哉 先生

特別支援学級 教科別体育「とびっこ遊び・ハードルリレー」(走・跳の運動)

福岡 二郎 教諭 三橋 寿美子 教諭 (10月29日)

指導者 川越市立特別支援学校 教頭 浅見 由利子 先生



教えタイムの設定

確かめタイムの設定

場の工夫

教え合いが活発になるような場を設定

グルーピングの工夫

コミュニケーションが図れやすいグループを編成



活動しやすいルールの工夫

活動しやすい場の工夫

段ボールで作ったハードルに絵を描き，意欲を引き出させる。

評価の工夫

個人やグループのがんばりを称賛する。

- (2) 基本的な生活習慣の確立をめざした実践
生活調査部（生活がんばり表を使って）
児童の中には、起床後、朝食を食べてこなかったり、洗顔、歯磨きの習慣が身についていなかったりする児童が見られた。

そこで児童全員に「生活リズムがんばり表」を実施し、生活習慣の改善を図った。理想的な生活リズムをもとに、個々の生活リズム表を作成しチェックを親子で行った結果、児童の生活に変化が見られるようになり、一日の生活を意識しながら生活できるようになった。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

今まであった学習規律を再度、しっかり実践できるようになった。

思考力を高めるためのコミュニケーション能力は、まず各教科のねらいに迫る授業展開をすることが基本であり、個を育てる重要性の確認ができた。

思考力を高めるためのコミュニケーションの仕方や支援方法が明確になってきた。

コミュニケーションを図るための音楽、図工、体育の関連性が見えてきたため、共通理解を図りやすくなった。

評価の部分では、具体的な評価方法が明確になってきた。

『生活リズムがんばり表』を活用することにより、個々の生活の帯を理想的な生活に近づけようと努力する児童が多くなってきている。

基本的な生活習慣を見直し、身に付けていきたい部分を月の重点目標とした結果、継続して実行していく意味や大切さを少しずつではあるが理解し、意識している様子が見られるようになった。

(2) 今後の課題

各教科を通じてのコミュニケーション能力の育成を受けて、日常生活に生かすことができない場面がまだあるので、生徒指導や教育相談と連携を図りながら進めていく必要がある。

コミュニケーションの育成は、学校のみならず、地域や家庭との連携が不可欠であるため、連携しながら進めていくことが重要である。

【環境調査部】

資料1

生活リズムがんばり表

年 組 なまえ

◎理想的な生活リズム (例)

起きる時間 (6:00)	朝ごはん (7:00)	排 便	学 校	友だちとの 遊び・運動 (夕焼けチャイムま でには帰らないうえ)	テレビ・ゲーム の時間 (時間以内)	夜ごはん (6:30)	おひる (8:30)	ハミガキ (9:00)
-----------------	----------------	--------	-----	-------------------------------------------	--------------------------	----------------	---------------	----------------

◎ほく、わたしの生活リズム

起きる時間 (:)	朝ごはん (:)	排 便	学 校	友だちとの 遊び・運動 (:)まで	テレビ・ゲーム の時間 (時間以内)	夜ごはん (:)	おひる (:)	ハミガキ (:)
----------------	---------------	--------	-----	---------------------------	---------------------------	---------------	--------------	---------------

*小学生の理想的睡眠時間は9～10時間です

おこ る時 間	洗 顔	朝 ご は ん	ハ ミ ガ キ	排 便	学 校	友だちとの 遊び・ 運動	テレビを 何時間み ましたか	ゲームを 何時間や りましたか	夜 ご は ん	お ひ る	ハ ミ ガ キ	おひ る に 入 った 時 間
11/21 (水)					ⓂⓂ	ⓂⓂ						
11/22 ...					ⓂⓂ	ⓂⓂ						

「子どもたちの自信を育む特別活動」

学校名 川越市立霞ヶ関北小学校

研究のポイント

児童が自分のよさやともだちのよさに気付き、よりよい学校生活を送るための学級活動(1)の「話し合い活動」の指導の工夫。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

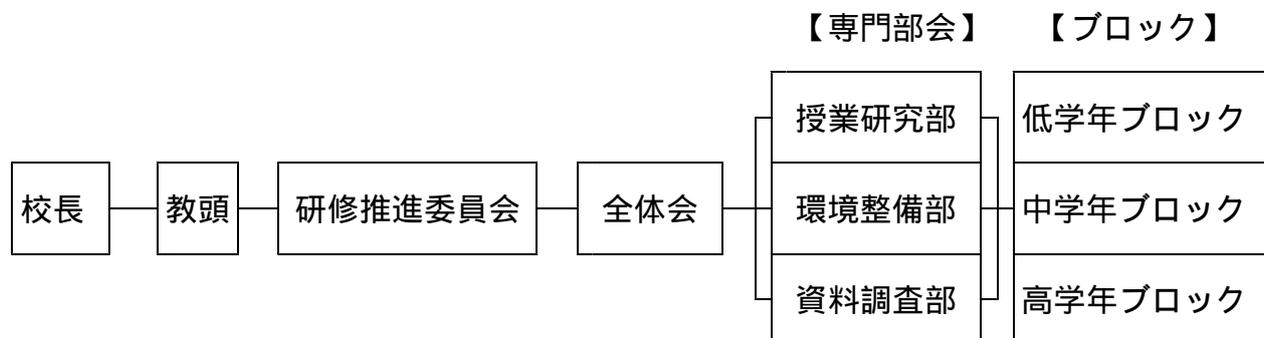
自分や友達のよさに気付き、自信をもって物事に取り組み、よりよい学校生活を作り出すことができる児童を育成する。

(2) 研究主題設定理由

学校教育目標「かしこく(あふれる知性) きよく(豊かな感性) たくましく(生きる意欲)」を掲げ、「自分のよさ(知性・感性)を發揮し、心豊かにたくましく生きる子ども」の育成を目指している。また、「子どもがうれしくなる学校づくり」を経営目標として掲げている。特に、「自分のよさを發揮する」という視点から、児童一人一人が自分のよさに気付き、自信をもって物事に取り組み、よりよい学校生活を送ることができるを重点に教育活動を展開している。

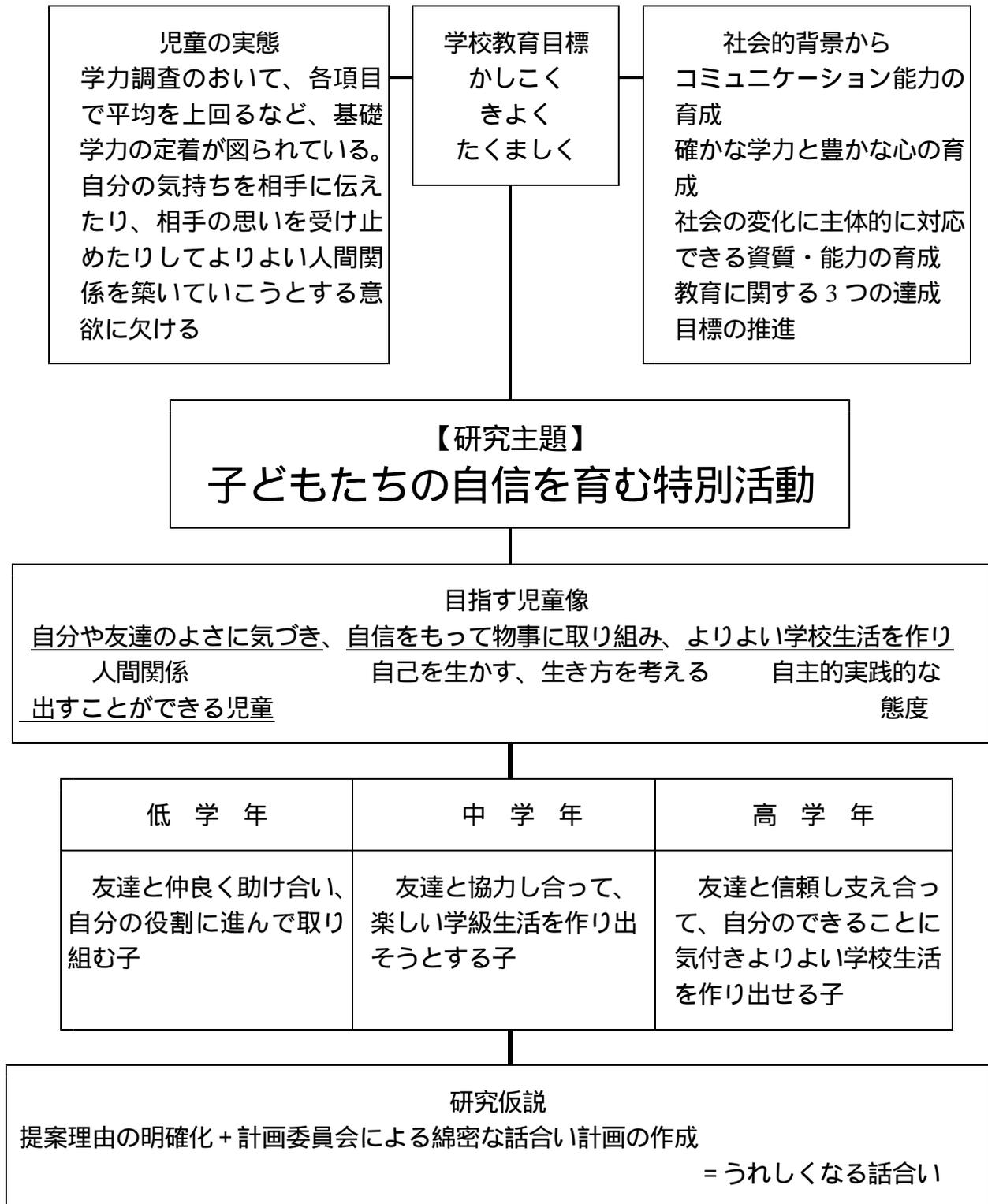
しかしながら、本校の児童の実態をみると、自分の意見を発表したり、学級で抱える課題を自ら解決したり、よりよい生活を楽しもうという意欲や実践力に欠ける面がある。「やればできるはずなのに・・・」「もっと楽しめるはずなのに・・・」という教師の声も聞かれた。「人間関係」や「自己の生き方」についてより一層深めていく必要性を痛感し、学級活動の改善を第一にとらえて、本年度の研究主題を設定した。

(3) 研究組織



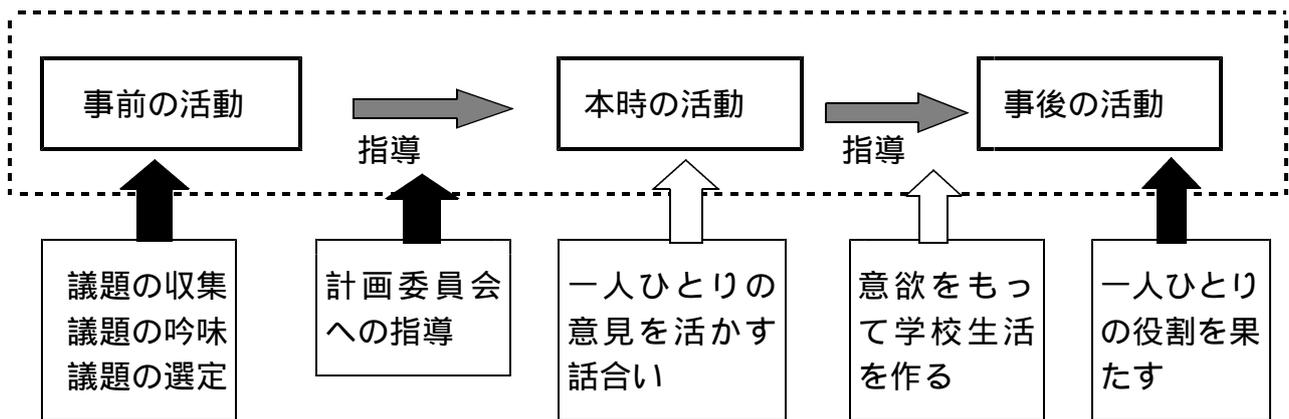
2 研究内容

(1) 研究構想



(2) 研究仮説について

話し合い活動を活発にするために学級活動を「事前の活動」「本時の活動」「事後の活動」を一つのユニットととらえ、その中で、特に「計画委員会への指導」と「提案理由の明確化」に焦点を当て、児童の実態に応じた具体的な方策を工夫し取り組むことによってねらいが達成できると考えた。



研究の全体仮説として、提案理由の明確化 + 計画委員会による綿密な話し合い計画の作成 = うれしくなる話し合い、を提示し、これに基づき低・中・高学年にて児童の発達段階等を踏まえた下位仮説を明確にする作業を行っている。

3 実践事例

(1) 研究授業の取り組みから見てきたこと

第1回研究授業「2年3組わくわく外あそび会をしよう」(2年3組)

ア 提案理由の明確化については、「提案用紙に理由がしっかり書ける」を取り上げ、今のクラスの状況、様子、今回の内容を行いたい訳、今回の活動を行うとクラスがどんなふうによくなる(成長する)の3点を記述するようにした。



イ 計画委員会による話し合い計画については、司会グループの児童への指導は話し合いの手順を丁寧に行うと共に「学級活動コーナー」に流れを明示した。

ウ 指導者より

(ア) 話し合いの終わりの教師の話は、提案理由を踏まえた意見の評価を。

(イ) 多様なグループや形態を工夫する。

(ウ) 特に低学年では話し合い活動の途中でその場での評価も大切。

(エ) 教師の考えをもって、進めたい方向を考えておく。ただし、それを押しつけない。

第2回研究授業「6-3で最高のクラスページを作ろう」(6年3組)

ア 提案理由の明確化については、「卒業文集づくり」というこの時期の児童にとって関心の高い議題を選定したことや、活動計画に教師のコメントを入れ提案理由にそった意見を出しやすくした。



イ 計画委員会による話し合い計画については、移動黒板と短冊を活用し、意見を「合わせたり」「はずしたり」して話し合いの進行がスムーズにいくように工夫した。

ウ 指導者より

(ア) 自分にもよくてみんなにもよいという観点で意見を出す。

- (イ) 議題の名称や柱立ての大切さ。また、提案者の意見を曲げない。
- (ウ) 低・中学年でまとめ方をしっかり経験させる。
- (エ) 集団討議の集団決定とは、教師の押しつけはしない。「私は、やだ」ではなく、それをどうにかできる人間関係作りが大切。学級経営がベースとなる。
- (オ) 一つの議題を丁寧に扱う。計画委員会を経験させる工夫を。例えば、前回計画委員だった児童が次回の計画委員を手伝うとか。

第3回研究授業「1組みんなで仲良くハッピー会をしよう」(3年1組)

ア 提案理由の明確化については、提案理由を共通理解できるような話合いの柱を設定した。

イ 計画委員会による話合い計画については、事前に出された意見を整理し、計画委員の原案という形で提案し、話合いの進行の効率化を図った。

ウ 指導者より

(ア) 活動を通して子ども達にどんな姿になって欲しいのか、事前～話合い～活動の場面で教師はしっかりとイメージしておく必要がある。

(イ) 活動が楽しければ、次回の話合いへの意欲につながる。この繰り返しを行う事が大切。

(ウ) 意見をまとめるだけでなく「今回は譲るよ」「ありがとう」というやりとりが「望ましい集団活動」の一つ。

- (エ) 終末の先生の話には次の3点を盛り込む。
 - 司会、計画委員をほめる。
 - 話合いの中でよい意見を出した子をほめる
 - 実践の意欲化を図る。



(2) 普段の授業での取組

「学級活動(1)話合い活動をやってみよう。」、研究主任の呼びかけで各クラスでの取組が始まった。示範授業として研究主任のクラスの話合い活動を公開したり、模擬学級会を行ったりし、全クラスが学級活動の取組を公開することとした。「学級活動公開カレンダー」を作成し、いつ行うかを公表し、「ぜひ見に来て感想を聞かせて下さい。」と、お互いに見合うことによって教師自身が抱える話合い活動の課題を明確にしていった。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 事前の準備・提案理由の明確化により、子ども達が意欲的に話合い活動に取り組めるようになった。

イ 授業の公開を通して、教師の意識が高まり、学級活動の取組に対し共通理解を図ることができた。

(2) 課題

ア 仮説について、各学年で取り組んだ具体的な手立てを、共通点や学年に応じた内容についてまとめ、より効果的な方法を検証していきたい。

「確かな言語能力を育む国語科指導」

～読むことの学習を通して～

川越市立川越西小学校

研究のポイント

課題解決的な学習に取り組み、学習過程を明確にすることにより、児童が見通しをもち意欲的に学習できるようにする。

自力で読み取る方法を身に付けさせ、交流する方法を工夫することで、児童が自分の考えをわかりやすく表現できるようにする。

図書資料を活用する場面を工夫することで、児童が進んで本を活用できるようにする。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

学習過程を明確にすることにより、国語の学び方がわかり、意欲的に学習に参加する子を育成する。

読み取る方法を工夫することにより、自分の考えを筋道立てて考え、表現する子を育成する。

目的に応じて図書資料を利用することにより、活用の意欲を高め、必要な図書を選んで読む子を育成する。

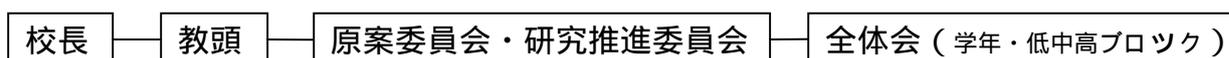
(2) 研究主題設定理由

平成20年3月28日に改訂された学習指導要領では、その基本的なねらいの一つに思考力・判断力・表現力の育成があげられている。これらの力を育むためには、読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能の習得の基盤の上に、観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実させる必要がある。また、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力育成のために、音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要性を説いている。

本校児童の実態は、国語に関する意識調査などから、国語の学習意欲が高いとは言えない傾向があり、自分の考えを適切にまとめ表現することが苦手である。また、各種学力調査から、事柄の順序や場面の様子を読み取ること、内容の中心をとらえ段落相互の関係を考えること、内容や要旨をとらえながら読むこと等、読みの力 - 読解力が充分でないことがわかった。

以上のことから、本校では、「読みの力」に着目し、言語を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力を育むことを目的に、研究主題を「確かな言語能力を育む国語科指導」、副題を「読むことの学習を通して」と設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

【 学校教育目標 】

自ら学び続け、たくましく生きる力を獲得できる児童の育成

【 目指す児童像 】

自ら学ぶ子

思いやりのある子

たくましい子

【 研究主題 】

確かな言語能力を育む国語科指導

－ 読むことの学習を通して －

【 目指す児童像 】

国語の学び方がわかり、意欲的に学習に参加する子

読み取ったことをもとに、筋道を立てて考え、表現する子

必要な図書を選んで読む子

【研究仮説 1】

学習過程を明確にすれば、児童は見通しをもった学習ができるようになり、意欲的に取り組むであろう。

【手立て】

課題解決的学習に取り組む。(学習課題 自力解決 交流 まとめ)
学習計画表を作成し活用する。
・学習計画表の掲示・配付
国語の学びの記録を掲示するコーナーを各教室に設定し活用する。

【研究仮説 2】

読み取る方法を工夫すれば、正確に読み取る力が高まり、自分の考えを筋道を立て、表現できるであろう。

【手立て】

自力解決の方法を工夫する。
・サイドライン
・ワークシート・書き込み
目的に応じた音読・朗読の方法を工夫する。
・動作化(低学年)
・各自の音読・一斉音読・役割読み・二人読み
交流の方法を工夫する。

【研究仮説 3】

目的に応じて図書資料を利用する場面を設定すれば、活用の意欲が高まり、児童が本を選び読むであろう。

【手立て】

図書資料が活用できる場面を工夫する。
・図書コーナーの設置
・教師によるブックトーク
児童が本を選び読んだことを評価し広める方法を工夫する。
・読書の記録
・読書発表会
・児童によるブックトーク

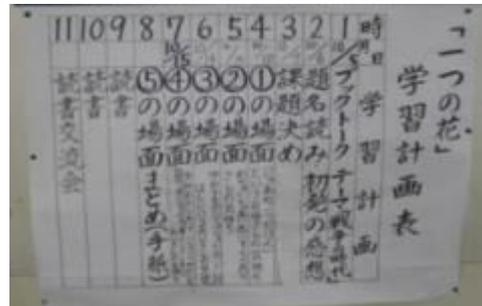
3 実践事例

(1) 研究仮説1の「手立て」の実際

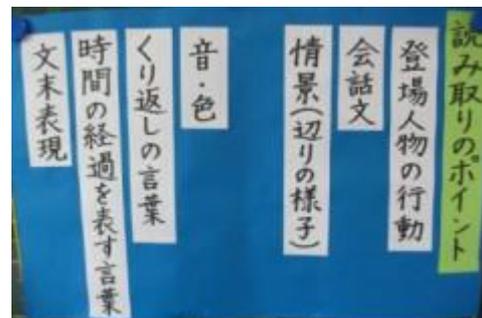
課題解決的な学習の基本的な学習過程を4つの段階とし、授業で繰り返し取り組み、定着を図るようにした。

<p>課題提示 児童にとってわかりやすく目につくように課題を提示し学習内容を確認する。</p>	<p>自力解決 課題を解決するために、叙述を読み、自分の考えをまとめていく。</p>	<p>交流 自分の考えをわかりやすく伝えたり、他者の考えを理解したりする。</p>	<p>まとめ 他者の考えと自分の考えを比べたりして、課題に対するまとめをする。</p>
------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------	------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------

学習がわかりやすく進められるように、学習計画表を作成し、教室の見やすい場所に掲示したり、ノートやワークシート学習計画表を取り入れたりする。

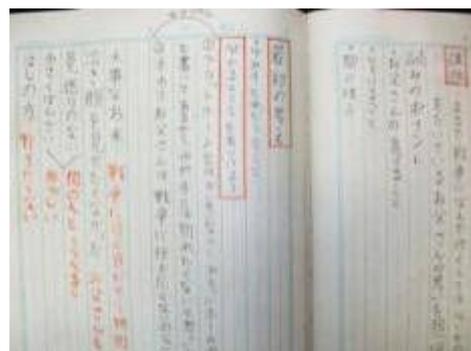


これまで学習してきたことや学年の既習事項を教室の一角の「国語コーナー」に掲示し、授業の中で既習内容を振り返ったり、確認したりして活用する。



(2) 研究仮説2の「手立て」の実際

重要な文や語句にサイドラインを引かせたり、自分の考えをワークシートやノートに書き込ませたりする。



各自の音読・動作化と音読・一斉読み・指名読み・役割読みなど、目的に応じた音読・朗読の方法を工夫する。

自分の考えをわかりやすく相手に伝える交流の方法を工夫する。

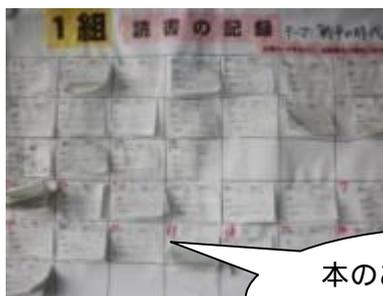
(3) 研究仮説3の「手立て」の実際

目的に応じて必要な本を紹介する「図書コーナー」を設けたり、教師によるブックトークをしたりする。



読書の記録や児童によるブックトークなど、読んだ本を評価し広める方法を工夫する。

関連図書を読んで、
グループで紹介する。



本のあらすじや感想を
書いて紹介する。

4 研究の成果と課題

【 成 果 】

学習計画表の提示や活用によって、児童が見通しをもち、意欲的に課題に取り組むようになった。

自力解決の方法を工夫することにより、叙述に基づいた読み取りをするようになり、自分の考えをわかりやすく表現するようになってきた。図書コーナーの設置やブックトークなどにより、児童が図書を選び活用する場面が増えてきた。

【 課 題 】

初発の感想を活かした学習計画表作りなど、より効果的な提示や活用の仕方を工夫する必要がある。

自分の考えを進んで表現することや自分の読みを深く考え直すことのできる交流の仕方を工夫する必要がある。

図書資料を単元計画の中で、どう活用していくのか、様々な設定の仕方を考えていく必要がある。